

訪日旅行者の受診状況～世界遺産 富士山の麓の医療の現状～

山梨赤十字病院 整形外科 1)、山梨赤十字病院 耳鼻咽喉科 2)、
山梨赤十字病院 泌尿器科 3)、山梨赤十字病院 内科 4)、山梨赤十字病院 外科 5)、
山梨赤十字病院 脳神経外科 6)、山梨赤十字病院 産婦人科 7)、山梨赤十字病院 小児科
8)

○大下 ^{おおした}優介^{ゆうすけ}1)、八木 敏雄 1)、平林 幸大 1)、石橋 淳 2)、林 圭一郎 3)、
加藤 謙一 4)、渡辺 誠 5)、小澤 宏史 6)、小田 成人 4)、渡辺 直子 7)、
佐野 友昭 8)、伊藤 誠司 4)、今野 述 4)

はじめに) 2013年6月に富士山が世界遺産に登録されて以降訪日観光客が増加しそれに伴い救急受診される症例も増加している。しかし、旅行者がどのような病態で受診されているのかの詳細な報告は無い。本研究の目的は、訪日旅行者の受診内容を調査し、今後の対策を検討する事である。

研究方法) 平成 27、28、29 年度に当院に受診された訪日旅行者を **retrospective** に調査した。

結果) それぞれの年度に受診された患者総数は 154 人、149 人、171 人であった。平均年齢は 36 歳 (0-89) であり、男性 223 人・女性 251 人であった。受診時間は平日の一般診療時間内が 205 人 (43.2%) であり、269 人 (56.8%) は夜間や休日祝日の受診であった。受診の原因となった疾患は感冒などの内科系疾患が 168 例、骨折や脱臼などの外傷が 166 例、膀胱炎や尿路結石などの泌尿器科系疾患が 22 例、不正性器出血などの婦人科疾患が 21 例で、小児科受診が 64 例であった。また来院時 CPA が 1 例にあった。

考察) 近隣住民であれば翌日まで経過を見ることも可能な症例も旅程のため、夜間の受診を余儀なくされている状態であった。一般的に入院精査を行っていたと考えられる症例も移動の予定などのため再診予定も立てられず応急処置のみとなっている症例もあった。

結語) 海外からの訪日外国人の受診状況を調査した。夜間休日であっても、様々な疾患で受診されており **Generalist** としての対応が求められている現状であった。今後さらに外国人旅行者が増えると考えられ、その対策は急務である。